

平和・人権
社会・宗教
政治と暮らし
分かち合い

No.62

共に生きる

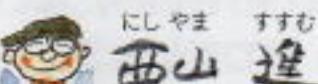
発行／〒806-0049 北九州市八幡西区穴生1-8-10／瀬下幸弘 FAX093-622-1290



第2回ニッコリしようパレード

下関市で開催(11月23日)

3p詳細

日本漫画家協会
日本漫画家会議

これを教える



が、全国に細かく組織作りができるおり… (2pに続く)

平和憲法破壊を目論む安倍

首相が

憲法改正一大人大会(11/11日本武道館)にメッセージ送る

武力によらない平和を願う

対抗の相手は「9条の会」

■「日本会議」の目的は「戦前回帰」

黙認できない状況です。安倍首相は「わが国は戦後、現行憲法の下で自由と民主主義を守り、人権を尊重し、現行憲法のこうした基本原理を堅持することは、今後も揺るぎない」と前置きしながら、世の中が変わったので「21世紀にふさわしい憲法を自らの手で作り上げていく」と改憲右翼(美しい日本の憲法をつくる国民の会)の集会でビデオメッセージを送ったのです。その大会に動員された多くが宗教団体(神社本庁・基督教真光など)と言られています。この大会で櫻井よしこ氏は、来年夏の参院選に向け憲法改正の実現に向けて全員の力を結集していくことを呼びかけています。今国会の安保法案(戦争法)論戦では、幾度となく政府が答弁不能に陥ったことは記憶に新しいところです。窮屈に追い込まれた安倍政権のとつた行動が、9月19日の強行採決だったのです。法案が採決されると、今度は有無を言わせず辺野古新基地建設を加速させました。沖縄県民の新たな闘いの始まりと同時に、戦争法を廃止させようと2000万署名運動が立ち上りました。そのような中で「今こそ憲法改正を」と叫んで集会が行われたのです。もともとこの改憲運動は08年に「9条の会」に対抗する新憲法制定議員同盟が「われわれと正反対の勢力、『9条の会』と称する勢力

12月の講演・集会案内

- ◆12月4日(金)戦争法廃止黒崎駅前行動 …13時
- ◆12月5日(土)下関アムネスティ(市民活動センター)…14時
- ◆12月11日(金)戦争法廃止黒崎駅前行動 …18時
- ◆12月12日(土)9条の会・北九州憲法ネットの総会と記念講演 小倉北区市立生涯学習センター…14時
- ◆12月14日(月)平和をあきらめない北九州ネット発足集会 北九州弁護士会館5階(小倉北区金田)…18時30分
- ◆12月19日(土)戦争法廃止全国統一行動 JR黒崎駅前 …18時

世界人権宣言(谷川俊太郎訳)

第11条 捕まっても罪があるとはかぎらない
うそのない裁判で決められるまでは、だれも罪があるとはみなされません。また人は、罪をおかした時の法律によってのみ罰をうけます。あとから作られた法律で罰を受けることはありません。

12月13日(日):イチイチ祈りの会 ※日取りが変わりました。

カトリック
場所は黒崎教会小聖堂、ミサ後～
どなたでもお出でください。

平和憲法破壊を止めよう

(1pの続き)

…『九条の会』と称する勢力が、全国に細かく組織作りができておおりまして、それに対抗していくにはよほどどちらも地方に拠点を作っていくかねばなりません。そこが今後の活動の大きな焦点となる」とはっきり述べています。“憲法改悪”をねらう勢力が対抗しているのは「九条の会」です。

この改憲勢力(日本会議)の活動の主なものは

- ・地方、中央で憲法シンポジウム・講演会の開催
- ・男系による皇位の安定的継承を目的とした皇室典範改正
- ・学校教科書に於ける「自虐的」「反国家」な記述の是正
- ・教育委員会制度の改革「愛国心」等の制定
- ・国防関連の運動「有事法制」の整備
- ・「ジェンダーフリー」運動反対

などがあります。まさに戦前と同じです。アメリカのニューヨーク・タイムズは、「日本会議」を「ナショナリスト(国家主義者)組織」と表現しています。「共に生きる」紙の1面タイトルではこれまで「日本国の右傾化は明らか(13.10月号)」「秘密保護法 国民主権を踏みにじる暴挙(13.12月号)」「首相の靖国神社参拝に抗議(14.1月号)」「ヘイトスピーチの放置は戦争前夜に等しい(14.9月号)」「慰安婦問題 歴史は書き直せない(14.11月号)」「戦争法案は若者が血を流す道(15.6月号)」と書いてきました。右傾化の流れが安倍政権によって一気に頭を

持ち上げてきたのです。しかしその流れを止めるのが「九条の会」であることを改憲勢力(日本会議)はわかっているのです。だからこそ宗教勢力を頼みとしながら改憲の運動を虎視眈々と狙っていることは明らかです。

もう一度冷静に過去を振り返ってみましょう。15年戦争(1931年の満州事変～1945年の敗戦まで)のとき、戦争に反対した人々はことごとく逮捕され、ある人は獄死、ある宗教団体は壊滅させられました。しかし、他の宗教界の多くは権力に屈服し戦争へと協力していった歴史があります。

1947年5月3日、新憲法がスターし現在に至っています。そのとき中学1年生用教科書として「あたらしい憲法のはなし」が発行されました。その中で

戦争の放棄をこう説明しています。「二度と戦争しないように、およそ戦争をするためのものはいっさい持たない。放棄とは、捨ててしまうということです。しかし日本は正しいことを他の国より先に行ったのです。正しいことぐらい強いものはありません。」

戦後70年間、自衛隊が存在しても、(武器を装備し)外国へ行き戦争(戦闘)することは一度もありませんでした。憲法9条が歯止めになっていたことは間違いないでしょう。平和憲法破壊の動きを何としても止めるため、九条の会の草の根の活動がますます求められています。



パリ同時
多発テロ

「戦争状態にある」とフランスのオランド大統領

では抑止力(空爆など)でテロをなくせるのか

自由法曹団通信2015.11.1(1541)号の8～10頁に「抑止力論とウソとごまかしを斬る」という小論文(井上正信氏)が掲載されている。その一部を紹介したい。

◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆

ごまかしその5 (軍事的)抑止力を高めればその国の国民は安全になるのであろうか。もしそうであれば、世界中で一番安全な市民は米国市民といえるが、本当はその逆だ。テロの脅威に一

番おびえている市民は米国人なのだ。

ごまかしその6 現在最も脅威とされている国際テロは、抑止が効かない相手だ。抑止力が強い国ほど国際テロの脅威にさらされているのは実に皮肉なことだ。…

◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆

テロは赦せない。しかし空爆で“ISの戦闘員のみを殲滅した”と誰がいえますか。空爆された地には一般民衆もいるはず。それが新たなテロを生む。Y

「ニッコリしようパレード」開催

ママさんの発言



仲良くやつていけたらも日本とコリアーが
（拍手）これからも日本とコリアーが
いつに意義深いものを感じました。このよ
うな集いが行なわれました。この
下関でこのように集いが行なわれまし
た。このように集いが行なわれました。
うこを通りかかったとき、涙が止ま
ない涙が止まない涙が止まない涙が止
まなくしました。昨年言葉

2回目となった「ニッコリしようパレード」が開かれ、大阪、北九州、福岡など遠方からの参加もありました。主催者の鍊野さんは挨拶で「仲良くしよう、差別をやめよう、この言葉に尽きます。下関は関釜連絡船のある歴史を刻んだ街です。在日コリアンのルーツ、ふるさとにつながる街です。下関には在日コリアンの方がたくさんいますが、その方たちの人権はどうなっているでしょうか。それを考えることは、マイノリティー、少数派の人たちの人権を考えること。多数派である日本人は忘れてはなりません。」と話しました。そして、下関は暴走を続ける安倍首相の選挙区であり、それをなんとしても止めたい、平和の道を歩みたい思いで一緒に行動しようと訴えました。リレートークでは山口県で唯一の外国人学校の朝鮮初中級学校の校長先生も挨拶。いま在日4世から5世の子どもたちに祖国の言葉や文化、そして日本で生きる力を育むことを教えていたが、困っていることとして山口県や下関市から助成金が打ち切られている窮状を訴えていました。その他様々な立場からのトーク後、サムルノリという朝鮮の伝統楽器を用いた農楽の現代音楽が披露され、パレードに移りました。



♪「共に生きるまち」
♪「広島から」♪
Sr.山本さんの平和の歌が響き渡りました。



この背中のプラカードが似合う日でした。

《アムネスティ》下関通信 (No. 20)

臥したきりの詩人星野富弘さんの詩の一節です。「大の字になって臥て二十数年／いつからか地球を背負っているような／大空と立ち話しをしているような／心の中にも大の字が生れて」。思わず胸が熱くなりました。

テロや空爆など地球上に新たな痛みが噴出しているようです。閉塞感が漂う中では、出口を求めて努力し続ける人々の熱意に癒され励されます。

先月の日韓首脳会談は、「慰安婦問題早期妥結で一致」しましたが、間もなく「安倍首相が“少女像”撤去を条件にした」とのニュースも報じられました。よい進展を求め、11/21～22、「日本軍“慰安婦”問題解決全国行動」会議が持たれました。そのため来日の韓国挺対協代表伊

が決めること。この条件に解決の意志をみることはできない」「法的責任とは被害者が性奴隸として働いたその加害事実を認めること」「解放闘争によって人間は創られる」。当会議がまとめた「要請書」のタイトルは、

「日本政府は被害者が受け入れられる解決策を」。文中に引用された金福童さんの言葉は「私も、日本政府を赦したい。死ぬ前に私たちが赦せるように、私たちが要求することをしてくれなくてはならない。私たちが心おだやかに逝けるように力を貸して欲しい」。11/23～24はアムネスティ「慰安婦」チームが関西で合宿、深夜3時までの熱い討論だったそうです。

臥したままで地球を背負う感慨に至られた星野さん。12月は危機にある個人を救援する、世界最大の人権イベント「ライティングマラソン」月です。(12/5・土・PM2～5時。下関市民活動センター。どなたでもご参加を)。

(2015.11.26 アムネ下関、山県)



消費税と人権・平和を考える

(11)

安永 亮 税理士事務所

安永 亮 所長



今回は、「所得の低い人たちの負担を軽減する」という政策について考えます。

消費税増税論者でさえ、所得の低い人たちを苦しめている消費税の現実を無視できなくなっている状況です。

まず、声高に主張されている「軽減税率」について考えてみましょう。2017年4月1日に消費税率を10%に引き上げる時点で、「軽減税率」の導入が検討されています。

「軽減税率」とは何でしょうか？標準の消費税率より低い消費税率のことです。具体的には、一定の範囲の食料品を現行の8%に据え置く案が検討されています。

第一にこの政策は、消費税増税の枠内での議論ですから、「軽減税率」が導入されても、消費税の負担は今より確実に増えます。なぜなら8%のものだけでなく、10%に引き上げられたものも生活には必要だからです。

第二にこの政策は、単一の税率だった消費税を複数の税率が混在する複雑な消費税にします。複数になることでさまざまな問題の発生が指摘されており、日本税理士会連合会も一貫して複数税率の導入に反対しています。

第三にこの政策を実施しても、消費税の強い逆進性は少しも変化しません。消費税は当初3%から始まり、5%、8%を経てとうとう10%になりますが、税率が低いから逆進性が弱いわけではありません。税率が低ければ実際に支払う消費税が少なくて済むだけで、少なくなるのは所得の大小にかかわらずすべての人に同じです。むしろ負担軽減の効果は、実額で考えると消費税を多く払っている人ほど大きくなります。

この政策を低所得者の負担軽減のためと強調する

のは、増税の影響を一番大きく受ける人たちに配慮しているように見せかけるために過ぎません。消費税率引き上げを中止するのが一番の負担軽減策です。

さらに、これからも財源を消費税に頼る政策を続けるなら、更なる消費税率の引き上げが続くでしょう。そうなると、引き上げの度に3種類、4種類と「軽減税率」が増えて、ますます複雑になるととも考えられます。増税に次ぐ増税を国民に飲ませるために、見せかけの負担軽減策を装おわなければならないからです。

次に、「軽減税率」を導入した恩恵はすべての人が受けるので、一定の所得以下の人たちだけに一定の金額を給付して負担した消費税を戻すという政策も考えられるでしょう。直接所得の低い人たちだけを対象にできるからです。給付の仕方は、確定申告を利用する方法や、別に支給する方法などいろいろでしょう。

しかし、この政策は結局、生活の苦しい人たちに対する社会保障の拡充こそが必要な政策であることを示しています。ことさらに消費税を戻すみたいな議論をする必要があるでしょうか。生活が苦しい原因は消費税だけではありません。

消費税を増税しながら、社会保障を抑制・削減し、年金を切り下げ、医療費などの自己負担を増やす等々さまざまな原因があります。消費税と結びつけて税金を戻すという発想は、福祉のためと消費税を導入した発想に縛られている結果なのかもしれません。

何をするにも消費税、消費税を増税しないと財源がないかのように思い込ませようと国民を誘導していると私は思います。

次回で最後です。改めて表題の消費税と人権・平和について考えたいと思います。



秋 (安永 亮さん撮影)



▲くもの巣から抜け出せないカマキリ



金山川沿い

若松有毛地区で▶



目指せ一流コック

手作りキッチンは段ボールなど500円で作りましたヨ。



もうすぐ2歳のR君、おやつを食べるのも忘れて、料理に夢中でした。(K通信員)



小林節さんの話を聞きました(D)

一度聞いてみたいと思ってたらチャンス到来。小林節さんは、憲法学者で改憲論者です。その人が改憲に反対の立場をとる共産党にエールを送ったりしているのでどうしてなのか知りたかったからです。短い時間でしたが“なるほど”と思いました。小林さんは主に民主党幹部との会話を紹介。

「共産党とは政策が異なる」と言ったが、「党が違うんだから政策が違うのは当たり前でしょう。自民党と公明党は権力を握るために互いの憲法觀が違うのに一緒になっているでしょう。われわれは憲法を守るために一緒にやろうって言っているんだ。レベルが違うよ」と。これには聴衆一同大拍手と大爆笑でした。「もともと民主党は第2自民党としてのスタートだから共産党とくついたら保守票が逃げるといったんですね。だから私は余計な心配するな、もう逃げてるよ」と。またまた会場大爆笑。「いま共産党は勢いがあるからへたをすれば公明党を打ち消しておつりがくるくらい」。そして、もっとかわいい話だがと前置きし、幹部が「あのね、志位さんに(国民連合政府を)先に言われたくなかった。私が先に言いたかった」と。その他に連合組合組織のことなどを話したあと、最後に「アベちゃんより志位さんのはう

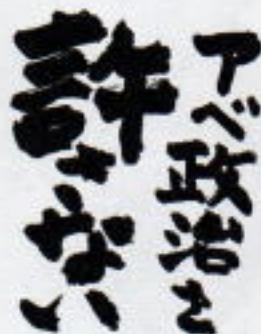
がいいでしょう」というと『ああ』「いま奴隸のような日米関係から兄弟のような関係に直していくことは可能です。それが沖縄の解決にもなります。」と締めくくりました。改憲論者の小林さんでも、安倍政権の暴走に黙っておれないんだなと感じた集会でした。

秋の風

3pのニッコリパレードに抗議？(S)

「ニッコリしよう」「心をつなごう」「世界を繋ごう」「一緒に生きよう」と唱和しながらパレードしていると舗道から40歳くらいの男が「拉致」と書かれたチラシを掲げて私たちに近づいた。警察官数名がすぐに取り押さえた。パレードのマイクを握っていた方が「そんなこと(拉致問題)もあるでしょうが、僕たちは政府との関係でなくて、一人一人が国境を越えて仲良くしようと言っているんです！」と諭すように言いました。拉致問題があるから仲良くすることができないと思っているのなら大間違です。もしかすると取り押さえられた男性の心に“反韓意識(=差別意識)”があるかもしれません。そうなら、その“差別意識”を植えつけた原因を学ばねば解決しないでしょう。ニッコリパレードに抗議するのではなく、まずは「仲良くしようと思っていない権力」に抗議してはどうですか。

85歳、石井方子さんが訴える



1930年生まれ
八幡東区九条の会
自身の体験を通して
平和の大切さを訴え
続けています。

戦争が終った時は15歳になったばかり。私たちは戦争に疲れ切っていました。夫を、父を、子どもを戦地に送り無差別空爆で命を奪われ、家財を失いながらもかろうじて生き延びることができた国民にとって、もう戦争をしないという憲法は解放感と希望そのものでした。

夫や子ども、兄弟が、ある日突然赤紙(召集令状)を渡されることに怯える日々はもう来ない。空襲も強制動員も遠い過去になる。明るい光の中で見合せた家族の安堵の笑顔、戦争は終ったことを実感しました。

言いたいことが言える。戦争放棄、主権在民、

基本的人権、民主主義・・・。学校に戻って学んだ新しい憲法の理念。私は本当に抱きしめました。

いま安倍政権が壊そうとしている平和憲法は、多くの命と引き換えに得た私たちの宝なのです。私は忘れません。もう爆弾で死ぬことは終った、私の命は私のもの、天皇のものではなくなったことを。しかし再び戦争のできる国になることを私は許せません。戦争法反対で立ち上がった大阪の女子大生の声を聞いてください。

「足腰の弱ったおじいさんやおばあさんが、熱い中をわざわざ出かけて戦争反対を叫んでいるのを見ました。この70年間戦争をせずにすんだのは、ずっとこうして闘ってくれたこの人たちがいたからです。の人たちがずっとやり続けてきたのは紛れもなく私たちのためでした！」

あなたたちのことなのよ、と追い求めてきた若い人たちが、いま立ち上がりその輪は広がっています。私は涙がでました。戦争する国、日本を2度とみたくありません。安倍政権を許さない。戦争する国にさせないぞ。

東アジアの平和と福音的展望

韓国国民1%の済州島民と東アジアの平和実現を夢見ながら

(最終回)



カトリック韓国済州教区長

カン・ウイル司教

※文責／編集部

【国家を越えてー私たちの使命】

このような歴史体験を振り返ると、国家が人間と個人の人権をどれほど思うままに踏みにじつてきたかがわかります。自分の国でもないのに外国に行き、自分たちに何の敵対行為もしていない民間人まで無差別に殺害する権限を一体誰から与えられたのか。それは全く何の正当性も合法性もない、認められない国家権力の暴挙と犯罪であると言うしかありません。

こういう国家の不法な介入、陰謀、政策が政府そのものであることがわかつた時には、これにはつきりと反対の意思表示をするべきです。そして常に真相を探し求め、隠されている、ごまかされている真実を明らかにすることが、キリスト者の責任ではないでしょうか。なぜなら聖書の中で預言者たちはいつもそういうことをやつておりました。国家は常に何かを隠したりごまかしたり真実に蓋をしてしまう、そういう属性を持つていています。國家とは人間の基本的な人権を容易に操ることのできる絶対的権威をだれからももらつていません。ところが、国家権力を握る人たちがあたかもそうであるかのように振る舞い続けてきました。自分たちが制定したいろいろな法律体系や象徴物を通して国家を神格化してきました。古代帝王制時代には、王こそ神から直接権力と威儀を頂いた神聖な存在であることを民の脳裏に焼き付けるために、王が祭祀職を兼任していました。それはある人間たちが

作り上げた国家を、神の作品として神話化することです。もちろん現代においてそのようなことはもう通用しません。しかし権力者だけではなく、一般大衆にも依然として国家に何かそういう超越的権威の根柢があるかもしれないという漠然としたあいまいな認識が残されている気配がなきにしもあらず、と私には思われます。私たちキリスト者は、人間たちの共同体である国家を、神話から解放つ使命があると思います。

地上に平和を築いていくためには、私たちみんなが国家という神話化された存在の上にのぼらなければいけないのではないかと思います。権力者たちの神格化された国家から解放されて、はじめて國家を越えたもつと高い究極の価値に向かう展望を持つことができるように、すなわち国家を絶対的価値の最高峰に置かないで、国籍、国境を越えて人間みんなの幸せと平和を追い求める展望を開くことが必然だと思います。そうでなければ国と国の摩擦と紛争は世の終りまで、決して乗り越えることができないでしょう。

そういう意味で私たち市民が草の根レベルで、市民団体のレベルで国境を越えて、民族を超えて連帯し合う、協力する、神の国の価値観によつて連帯しあうネットワークが本当に必要だと思いますし、それがこの人類を悲劇から救い出す唯一の道ではないかと思ひます。ありがとうございます。

(終り)

編 集 後 記

琉球新報論説委員が作家の佐藤優さんのたとえを紹介(11/3極楽寺で)。A校のクラスの話し合いで、トイレ掃除を月~金まで沖縄君だけに押し付けることにした。沖縄君へ同情の声も出たがB校が学力向上したため、A校は土曜も授業をすることにし土曜も沖縄君にトイレ掃除をしてもらうことに決定。理由は沖縄君の席がトイレに一番近い、誰もトイレ掃除の仕方を知らないから。 A校の授業を軍備を増やす日本に、B校を中国に置き換えれば、辺野古移設に反対する沖縄県民と、その訴えを無視し続ける政府との関係が見えると。沖縄いじめも目に余る。(瀬下)

* 「戦争の記憶・記憶の戦争
—韓国人のベトナム戦争—
キム・ヒョナ(金賢娥)著 三元